

式場の設営について

大山祇命神示教会神総本部

大山祇命神示教会では、一般の「葬儀」に当たる儀式を「玉納奉寿ぎよくのうほうじゆ」と呼びます。この儀式は、「玉納奉寿の儀（葬儀・告別式）」「玉立ぎよくたつの儀（出棺の儀式）」「火送りの儀（火葬の儀式）」「神玉しんぎよくの儀（納骨式）」の四つからなります。通夜には、「納魂のうこんの儀」と呼ぶ故人をしのぶ儀式を行う場合と、ご遺族のみで故人をしのぶ場合があります。（火葬場から戻っての儀式はありません）

「玉納奉寿」は、故人が安らかに心の世界に旅立てるように、そして故人の魂が幸福な運命の下、再び人としてこの世に生まれくることがかなうようにと、職員（伝導師でんどうし）が神示教会の式次第に基づき執り行う、故人の人生の終日しゅうじつを飾る儀式です。

神道式の祭壇を使用して行いますが、儀式は神示教会の内容となります。したがって、貴社にてご用意くださる備品以外に、当方にて準備させていただく備品もありますので、ご確認ください。

特にご留意いただきたいことは、式場と放送機材です。玉納奉寿では、納魂の儀（通夜）、玉納奉寿の儀（葬儀・告別式）ともに、一般の方も含めて全員が儀式に参列します。進行担当の伝導師が、マイクを通してご会神（参列）の皆さまに、式次第の内容を、その都度説明しながら儀式を進行します。そこで、式場に全員が入れるようにご配慮いただくとともに、伝導師の説明が聞こえるように、スピーカー等の配備をお願い申し上げます。

なお、以下の内容は、基本的な設営方法です。状況に合わせて適切な設営にと調整する場合もあり、その際は、打合せをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

目次

1. 用語説明	2
2. 式場の設営	2～3
祭壇関係	2～3
拝礼設備関係	4
放送設備関係	4
教会が用意するもの	4
準備の際にご留意いただきたいこと	5
看板、および礼状等に使用する名称	6
3. 前飾り・後飾り	7
前飾り（枕飾り）	7
後飾り	7
4. 開式前の準備	8
5. 玉納奉寿の式の流れについて	8
・玉納奉寿の式次第（葬儀業者用）	9
・玉納奉寿確認事項	10～12

1. 用語説明

儀式にかかわる、神示教会独自の用語を説明させていただきます。

ぎょくのうほうじゅ
玉納奉寿 ……葬儀全般の総称

のうこん
納魂の儀 ……通夜の儀式

玉納奉寿の儀…葬儀・告別式の意

ぎょくたつ
玉立の儀 ……出棺の儀式

ひ おく
火送りの儀 ……火葬場での儀式

ほうてん かんかざ
奉奠用 神飾り…参列者お一人お一人に、儀式中
に奉奠していただく、教会独自
の意匠のものです。

祭壇用 神飾り…神示教会独自の設えです。

ぎょくほう ひつぎ
玉包 ……棺

しん し
信子 ……称号・戒名・法名

しんわく
信柩 ……霊璽・位牌

どうねん
道年 ……享年

じゅ
寿 ……没・歿

まえかざ
前飾り ……枕飾り（後飾りは一般と同様です）

でんどう し
伝導師 ……神職

しんしゅ
信主 ……喪主

しん か
神家 ……喪家

かいしん
会神 ……会葬

2. 式場の設営

式場の設営は貴社にお願いしますが、祭儀にかかわる教会独自の設営部分は、この「式場の設営について」の内容に基づいて設営していただけますようお願いいたします。
（教会職員が持参する備品等は、地域によって多少異なる場合があります）

・祭壇関係

・祭壇

一般的な神道式の祭壇をご準備ください。

祭壇最上段に宮（輿）は、教義上は必要ありませんが、事情がある場合はお申し出ください。

・神幕屏風

祭壇最上段に設置します。（当教会で用意し、設置します）

神幕屏風は、横幅 170cm・高さ 45cm・奥行 25cm の大きさです。

・御神体

祭壇最上段の中央（神幕屏風〔または輿〕の前）に、当教会職員が持参し、おまつりします。

・祭壇用神飾り（櫛に代わるものです）（一対）

職員が持参します。「御神体」の下段（無理な場合のみ同段）の両脇に設えますので、そのためのスペースを空けておいてください。

・塩・洗米・水・清酒（神器用供物台〔三方〕、右図参照）

三方に載せ、神に対して供える品目です。水（水玉）、清酒（瓶子）の量は、器の七分目でお願いします。

・ご遺影

祭壇の右側または左側に設えます。花額等の装飾や、ご遺影の周囲を生花で飾ることは、神家（喪家）のご希望に合わせて設えていただいて結構です。

・信柩（霊璽）

教会にて用意します。

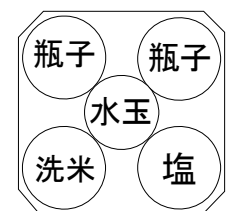
・ろうそく

燭台を使用し、祭壇の設えに合わせて、1～2本ご用意ください。（燭台にかがり火タイプでも可）

・お供物

神家（喪家）にご確認の上、葬儀社または神家（喪家）にてご準備ください。品物は、故人の嗜好品を主

【三方への神器の供え方】



に、野菜、果物、乾物、缶詰などを
供えていただいても結構です。

・三方の準備（右図参照）

半紙を使用し、その上に神器、お
供え物を飾ります。三方の数に指
定はありません。

・玉包（棺）・玉包覆い

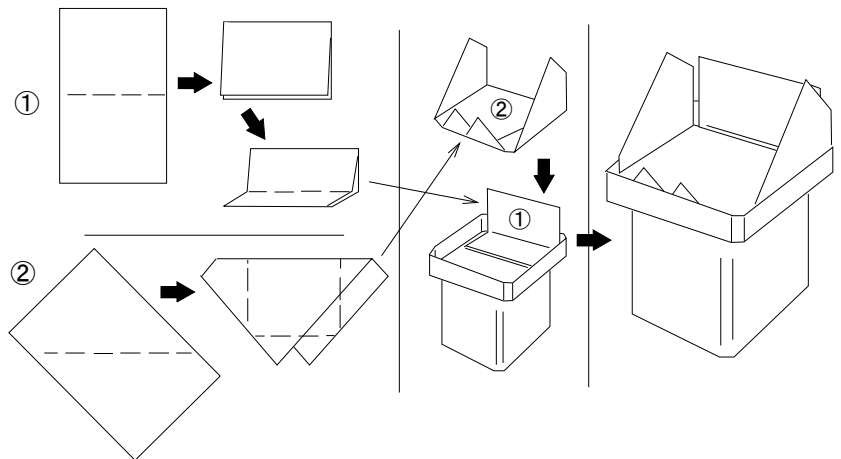
玉包は、祭壇の手前に置きます。
玉包覆いは、玉包の中央にかけま
す。玉包覆いは紙製のため、炉に
入れる場合は、そのまま構いま
せん。

・生花関係

祭壇の周辺には、神家（喪家）の
ご希望に合わせて生花等をお飾り
いただいて結構です。生花の色には
こだわりません。榊でなくて構いま
せん。大榊も必要ありません。

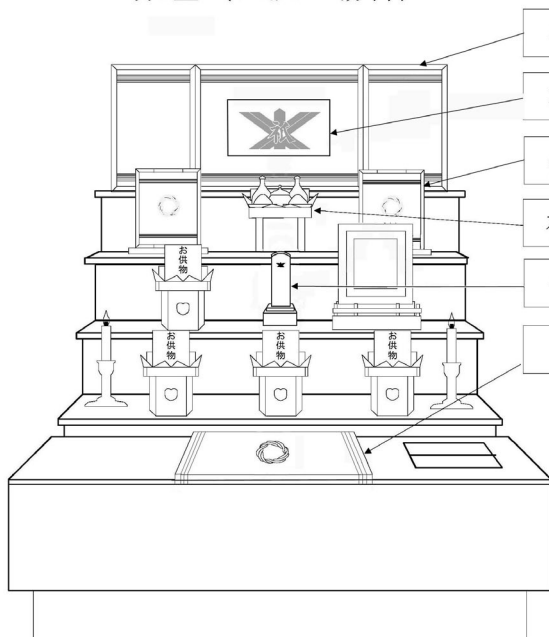
【三方に敷く半紙の折り方（一例）】

半紙を二枚（①・②）、それぞれ図のように点線に沿って折り、三方の上に敷きます。

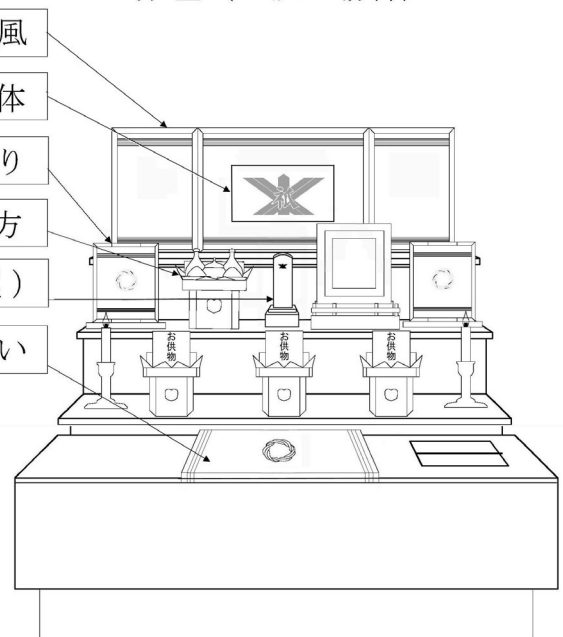


【祭壇の設え】

祭壇（四段の場合）



祭壇（三段の場合）



- 神 幕 屏 風
- 御 神 体
- 祭壇用 神飾り
- 神 器 用 三 方
- 信 杵（靈 璽）
- 玉包（棺）覆い

- ・ 最上段には、「神幕屏風」と中央に御神体をおまつりするため、ほかのものを置かないでください。なお、祭壇の後方から設置しますので、人が通れるスペースを空けておいてください。
- ・ 図は一例です。祭壇の段数、三方の数に指定はありません。
- ・ 御神体の下には信杵を置きますので、遺影は、信杵の右側、または左側に遺影のお顔の向きに合わせて配置してください。
- ・ 玉包（棺）は、祭壇の手前に安置してください。

・拝礼設備関係

・奉奠用 神飾り^{かんかざ}（右図参照）（玉串の準備は必要ありません）

故人への拝礼の際、玉串（榊の小枝）に代わり、神飾りという当教会独自のものを会神者（参列者）に奉奠していただきます。（教会にて用意します）

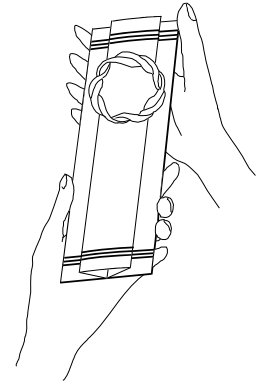
・案（下図参照）

八足案、または机に白布をかけた形で代用しても結構です。

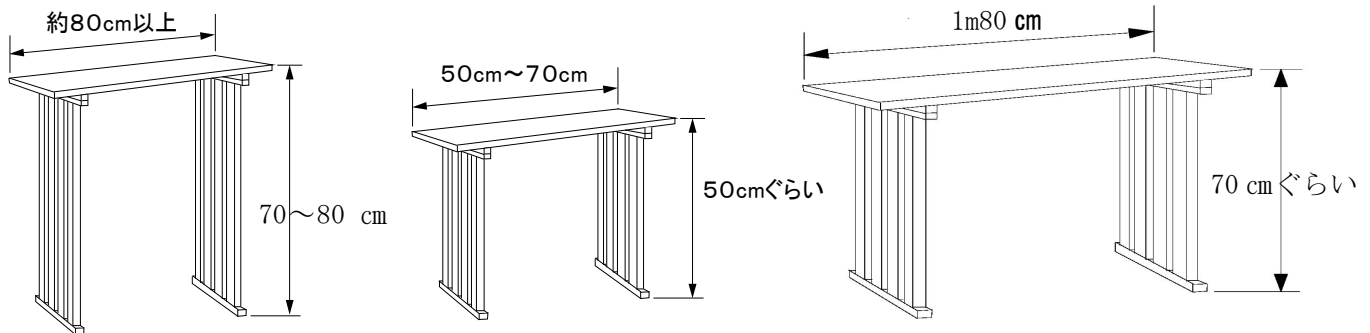
祈願の詞担当の職員用に1台、神飾りの奉奠場所が1カ所の場合は、合計3台となります。奉奠場所が2カ所の場合は、奉奠台および準備台として4台の、合計5台をご用意ください。

座礼の場合は、座礼案をご用意ください。

【奉奠用神飾り】



【八足案】



＜奉奠台および準備台用＞

＜祈願の詞担当の職員用＞

＜一般用の奉奠台＞
（白布で覆ったテーブル可）

・お盆

神飾りの奉奠は、案の上に直接置かず、お盆などを使用しますので、できれば四角い大きめのお盆を5枚以上と半紙をご用意ください。

○いす

会場が立礼の場合、職員用に2脚をご用意ください。

また、座礼の場合は、座布団の用意をお願いします。

いすおよび座布団の色については、教会職員は、紫色のものは使用しません。

・放送設備関係

・祈願の詞を担当する伝導師用のマイク1本、進行を担当する伝導師用マイク1本、感謝の言葉用マイク1本の合計3本のマイクと、立ちスタンド2本と卓上スタンド1本の用意をしてください。

・スピーカー等の配備について

進行担当の伝導師が、口頭で説明しながら儀式を進行しますので、開式後は式場の内外を問わず、会神者（参列者）の皆さま全員に伝導師の説明をお聞きいただきます。参列の皆さまに伝導師の説明が行き届くよう、アンプ、スピーカー等の配備をお願いします。なお、CDを持参し、儀式の中で音楽を流しますので、CDプレーヤーの準備をお願いします。

・教会が用意するもの

「神幕屏風」「御神体」「御神体台」「祭壇用 神飾り」「信杵」「玉包覆い」「CD」
「奉奠用 神飾り」（会神予定人数分）

・準備の際にご留意いただきたいこと

●当教会では不要なもの

神道式の「玉串（^{たまぐし}榊）」「神鏡」「^{へいはく}霊璽」「^{まさかき}幣帛」「真榊」「守り刀」「しめ縄」は必要ありません。

●当儀式で行わないこと

- ・「^{しゅげつ}修祓の儀」は行いません。お払い用の大麻（^{おおぬさ}大きな榊の枝）も不要です。
- ・「御魂移しの儀」は行いません。納魂の儀（通夜）の儀式中に消灯はしません。
- ・納棺は、ご家族、ご親族の皆さまで行っていただきますが、その際、「納棺の儀式」はありません。神家（喪家）と葬儀社との打合せにて行ってください。
- ・一般で行われているところの会神（会葬）札状に添えている「清め塩」「神棚に白い紙を貼る（神棚封じ）」「仏壇を閉じる」などは、教会の教義としては不要です。ただし、神家（喪家）の意思に任せます。

・死装束について

死装束は、教会としては平服を基本としております。

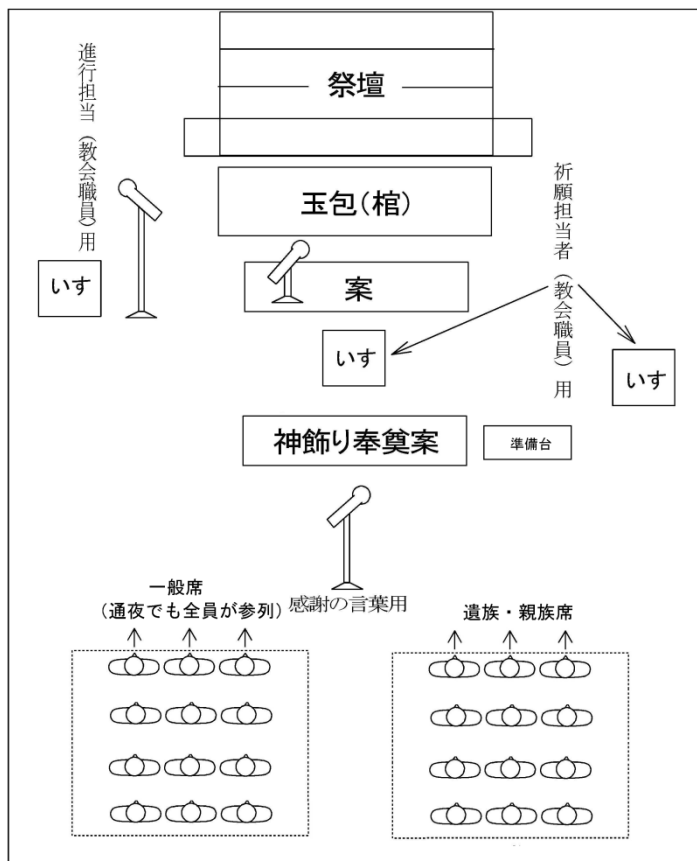
・更衣室

教会職員が着替えをするための部屋を、ご手配ください。

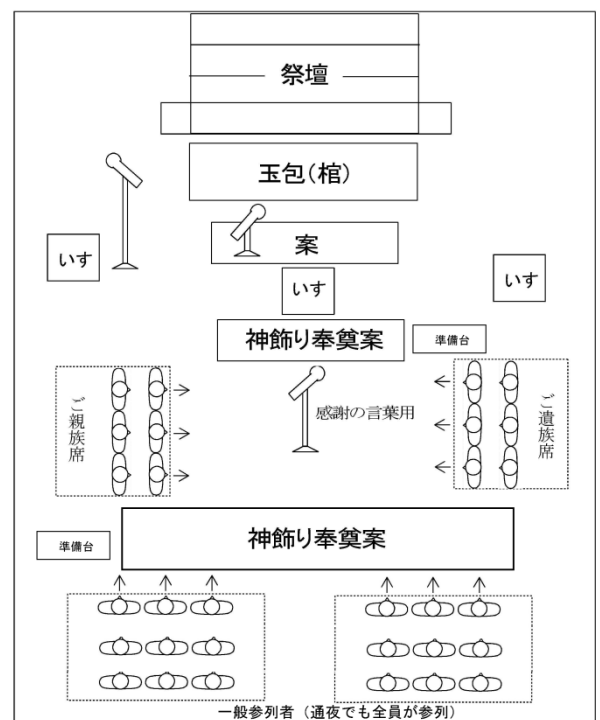
・駐車場

教会職員が車で出向く場合のみ、普通車1台分のスペースの確保をお願いします。

【会場の設えの基本形（一カ所で神飾り奉奠）】



【会場の設え（二カ所で神飾り奉奠）】



・看板、および礼状等に使用する名称

看板等の表記は、下記のように教会独自の名称にてお願いします。

※既製品等に印刷されているものは、名称をあえて変更する必要はありません。

【看板の一例】

※「のうこん」「ぎよくのうほうじゅ」のふりがなも入れてください。
※（ ）内の文字も併記してください。

故

○ ○ ○ ○ ○

儀

式場

納魂のうこんの儀（通夜） ○月○日○時～

玉納奉寿ぎよくのうほうじゅの儀（葬儀・告別式） ○月○日○時～○時

【会神（会葬）礼状の参考例】

故父○○○○○（○○歳）の玉納奉寿ぎよくのうほうじゅに際しましてはご多忙中にも
もかかわらずご会神かいしん（会葬）賜り かつ親しく神飾かんかざりりをご奉奠
いただきまして まことに有り難く 御礼申し上げます

早速お伺いの上ご挨拶申し上げるべきところ 略儀ながら書状を
もって御礼申し述べさせていただきます

令和○年○月○日 納魂のうこんの儀（通夜）
○月○日 玉納奉寿の儀（葬儀・告別式）

○○市○○区○○町○丁目○番地

信主しんしゅ（喪主） ○ ○ ○ ○ ○

外 親戚一同 ○ ○ ○ ○ ○

●故人の年齢

神示教会の玉納奉寿において、故人の年齢は「道年どうねん」といい、1年に満たない年齢も1歳として数えますので、満年齢に1歳を加えた年齢となります。儀式においてお伝えする年齢ですので、確認をお願いいたします。

3. 前飾り・後飾り

前飾り、後飾りの祭壇は、故人に対しての拝礼の設備として、下記の内容のものとともに、供えるための台を神家（喪家）の方のご意向に合わせてご準備ください。

・前飾り（枕飾り）

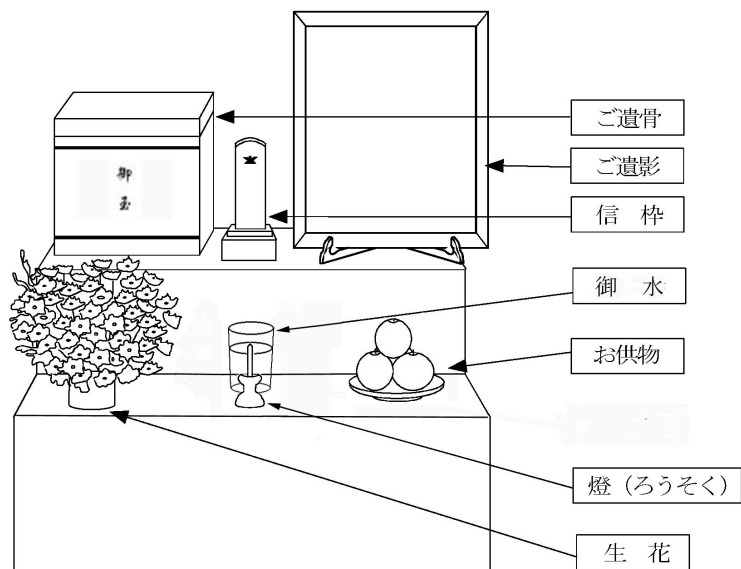
故人に対し拝礼しやすい場所に、「お供物（故人が生前大事にしていたもの、または嗜好品など）」「生花」「ろうそく」「御水」などを供えます。

・後飾り

儀式後、納骨までの間、ご遺骨を安置する設えとして、前飾りと同様の趣旨のもとに「後飾り」を設えます。すなわち、「ご遺骨」とともに「ご遺影」「信杵」「生花」「ろうそく」「御水」「お供物」などを設えます。（鈴や鉦は不要です）

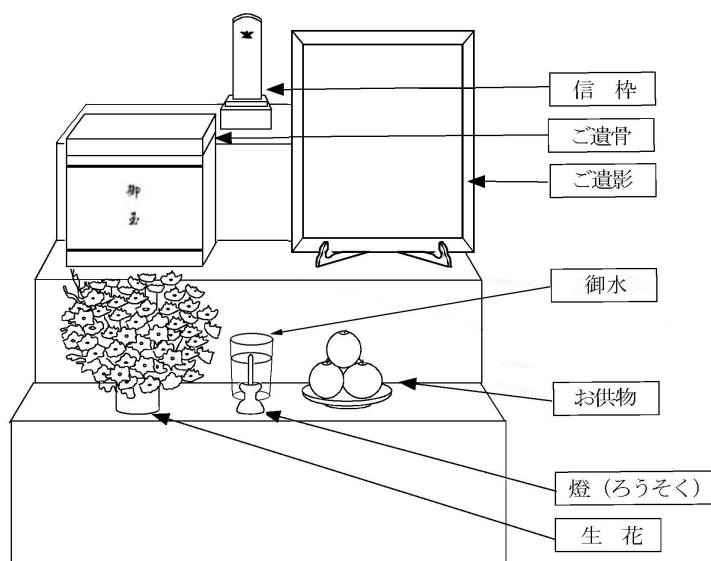
[後飾りの設え例]

[二段]



※前飾りでは、信杵があれば上段中央に置き、遺影を右側に設えます。上段が遺影だけの場合は、中央に置きます。

[三段]



※前飾りでは、信杵があれば上段中央に置きます。信杵がない場合は、上段の中央に遺影を置きます。空いている所には供え物を置きます。

4. 開式前の準備

開式前に貴社にご協力いただきたい内容は、以下のとおりです。

- ・伝導師が会場に到着後、ご遺族に信杵（霊璽）をお渡しします。その後、式次第の説明をしますので、その時点で、貴社（担当者）もご同席ください。
- ・開式 20 分前から、当教会職員が持参したCDをBGMとして会場に流しますので、貴社（担当者）に操作をお願いします。
- ・開式 15 分前になりましたなら、祭壇の燈（ろうそく）を点灯してください。
- ・開式 10 分前になりましたなら、ご遺族、ご親族の皆さまへ、着席のご案内をお願いいたします。

5. 玉納奉寿の式の流れについて

玉納奉寿の各儀式の執行に当たっては、祈願の詞^{ことば}および全体の進行は伝導師が担当させていただき、貴社（担当者）には弔辞の進行、弔電の拝読を担当していただきます。また、儀式を滞りなく進めるために、貴社（担当者）には、設営面と、会神（参列）者の誘導もお願いいたします。

玉納奉寿 式次第

通夜の儀式

納魂の儀

- 一、開式
- 二、信子の拝受
- 三、祈願の詞
- 四、神示
- 五、神飾り奉奠
- 六、伝導師挨拶
- 七、閉式

葬儀・告別式

玉納奉寿の儀

- 一、開式
- 二、送魂の儀
 - (一) 信子の拝受
 - (二) 祈願の詞
 - (三) 奉生神歌
- 三、神礼の儀
 - (一) 故人に贈る言葉
 - (二) 神飾り奉奠
 - (三) 伝導師挨拶
 - (四) 親族代表挨拶
- 四、閉式
- 五、玉立の儀
 - (一) お別れ
 - (二) 玉立

火葬場での儀式

火送りの儀

- 一、開式
- 二、祈願の詞
- 三、閉式
- 四、収骨

納骨の儀式

神玉の儀 (納玉の儀)

納骨

出棺を先に行う場合

玉立の儀

- 一、開式
- 二、祈願の詞
- 三、お別れ
- 四、玉立 (出棺)
- 五、閉式

納骨の儀式を後日に行う場合

神玉の儀 (納玉の儀)

- 一、開式
- 二、祈願の詞
- 三、閉式

●●家 玉納奉寿確認事項

大変お忙しいところ恐縮ですが、至急確認の上、この用紙3枚（P 10～12）をファクシミリにて返信してください。（045-730-1727）

各項目を確認されましたなら、□にレ印を入れ、（ ）内に必要事項をご記入ください。

①神家（喪家）のご希望や地域の習慣などにより、故人の略歴の紹介、特別な宣言、演奏など、ご希望がある場合は、あらかじめ打ち合わせさせていただきたくお願いいたします。

②地域の慣習や神家（喪家）の皆さまのご意向もあるかと思いますが、故人をしのぶために行われる会食会等へは、当教会職員は出席を遠慮しておりますので、ご承知おきください。

1. 貴社担当者の方の氏名（ ）様

2. 会神（会葬）人数について

身内・親族 人くらい
一般 人くらい

3. 日時の確認

・納棺・・・（ ）日（ ）時（ ）分～
・ご遺体の移動・・・（ ）日（ ）時（ ）分～
・納魂の儀（通夜）・・・（ ）日（ ）時（ ）分～

場所（□式場〔 〕 □自宅）

ご遺族と伝導師の打合せ・・・（ ）日（ ）時ごろ ※2時間前に集合されるようご案内ください。

・玉納奉寿の儀（葬儀・告別式）・・・（ ）日（ ）時（ ）分～

場所（□式場〔 〕 □自宅）

・玉立（出棺）・・・（ ）日（ ）時（ ）分～
・火送りの儀（火葬場の到着）・・・（ ）日（ ）時（ ）分～

4. 式場の所在地について

まことに恐れ入りますが、詳細地図をファクシミリにてご送付ください。

詳細地図がない場合は、下記にご記入ください。

式場の住所（ ）

式場への連絡方法

①式場の電話番号（ ）－（ ）－（ ）
②式場のFAX 番号（ ）－（ ）－（ ）

最寄りの駅、交通機関

（ ）線（ ）駅、（ ）出口
式場まで（徒歩・電車・タクシー・迎車）（ ）分

5. 火葬場について

火葬場の名称()
住所()

①式場から火葬場までの所要時間 ()分

②火葬場では5分ほどの儀式を行いますか。 ☐可 ☐不可

③収骨まで神家は ☐火葬場で待機します。

☐火葬場と式場間の伝導師用の車両の手配をお願いします。

(伝導師が車で出向いた時は必要ありません)

☐いったん自宅へ戻ります。

④火葬場から最寄りの駅までの所要時間

最寄りの駅()駅まで、車で()分

⑤火葬場において伝導師の着替えは可能ですか。

☐可 ☐不可(火葬場以外の着替え場所)

6. 設営に入れる時刻の確認

貴社は、いつから設営に入られますか。

() 日 () 時) ごろから

7. 祭壇回りの幕について

☐祭壇回りに幕を張る場合は、白幕をお願いします。

☐葬儀会館の場合は、祭壇回りに幕を張る必要はありません。

8. 祭壇関係についての確認

☐神幕屏風について

神幕屏風と御神体を祭壇の最上段にまつりますので、そのためのスペースを空けておいてください。

☐祭壇用神飾りについて

祭壇には、祭壇用神飾りを教会から持参して供えますので、榊の準備はしないでください。

☐信杵(霊璧)について

信杵は、教会から持参します。

☐供え物について

①塩・洗米・水・清酒をご用意ください。(ファクシミリの「三方への神器の供え方」参照)

②お供え物は、故人の好きだった食べ物を中心に用意し、鮮魚等は特に供えなくても差し支えありません
お供え物は、神家、または貴社で用意していただき、祭壇にあらかじめお供えしておいてください。

③祭壇のお供え物は、儀式日二日間を通して取り替える必要はありません。

☐玉包(棺)について

①玉包の位置は、祭壇の前をお願いします。

②玉包覆いを教会から持参し、玉包の中央に掛けます。

9. その他

☐ 奉奠設備について

- ①案は、神飾りを1カ所で奉奠する場合は、祈願担当伝導師の前に置くものも含めて、3台用意してください。2カ所で奉奠する場合は、5台必要です。
- ②お盆は、神飾りを1カ所で奉奠する場合は、大きめのものを5枚用意してください。2カ所で奉奠する場合は、7枚必要です。半紙は20枚ほど用意してください。

☐ 放送設備について

- ①教会から、CDを持参し、使用させていただきます。その際、そちらの会場にある機材を使用しますので、よろしくお願いいたします。
- ②祈願の詞を担当する伝導師用のマイク1本、進行を担当する伝導師用マイク1本、感謝の言葉用マイク1本の合計3本のマイクと、それぞれのマイクスタンドの用意をしてください。
(卓上スタンド1本、立ちスタンド2本必要)

☐ 生花関係について

祭壇回りは、生花を使用して構いません。

☐ 奉奠用神飾りについて

- ①故人への拝礼には、教会独自の「神飾り」を使用します。
- ②よって、玉串は必要ありません。

☐ 御玉入れの使用について(必ず神家に確認して、どちらかにレ印を入れてください)

- ☐ ご遺骨をお納めするものとして、教会特製の御玉入れを使用します。(□5寸・□7寸)
- ☐ ご遺骨をお納めするものとして、一般の骨壺を使用します。

☐ 看板の書き方について

極力、ファクシミリに載せてある見本どおりに表記してください。

☐ 会神(会葬)礼状について

故人の年齢は、道年と言い、満年齢に1歳を加えた年齢で表記してください。_(_____ 歳)

☐ 司会について

当教会の儀式は、すべて教会職員が進行していきます。なお、貴社には、弔電の拝読を担当していただきます。

☐ 食事について

伝導師は、会食の席には同席しませんので、食事の準備は必要ありません。

ご協力ありがとうございました。不明な点や質問などありましたなら、遠慮なくご連絡ください。